

特集

前立腺肥大症（BPH）の 手術療法

臨床現場の本心

企画にあたって

前立腺肥大症手術に関する特集が本誌に最後に企画されてから約5年が経過しました。この間、蒸散術や核出術の進歩は著しく、長期治療成績も蓄積され、その普及が進んだといえるのではないのでしょうか。加えて、経尿道的前立腺吊上げ術に使用されるUroLiftシステムの適正使用指針が策定され、TUVPといった術式が出てくるなど、新しい選択肢も注目されてきており、泌尿器科手術の中でも明らかな進化を遂げている領域であるといえます。

しかし、臨床現場に目を向けると、昨今の高齢化社会において、認知症、抗血栓療法、巨大前立腺肥大症、排尿筋低活動などさまざまな合併症や患者背景を有する症例にもしばしば遭遇し、術者にとって新たな学びの機会が繰り返されることも決して少なくないのではないのでしょうか。

今回の特集ではこういった現在の注目すべき治療方法や治療方針に関して、さらには現代社会のニーズに合わせた日帰り手術の実際や避けては通れない術後合併症に対する対応を含め、各領域のエキスパートの先生に解説いただきます。

ガイドラインや学術雑誌ではどうしてもエキスパートによる好成績に注目が集まることが多くなるため、実際現場で遭遇する個々の困難症例や未経験の課題への対処法に注目し、どう考え、どのような工夫が実施されているのかを述べていただきたく、サブタイトルを「臨床現場の本心」と題しました。常に最先端で活躍されてきた著名な先生方から新進気鋭・次世代のリーダーの先生方まで、幅広く筆者を選定させていただいた次第です。

前立腺肥大症手術をこれから習得する若手の先生、さらに技術/知識を深めたい先生まで、本書を参考にしていただくことで日々の診療にお役に立てることができれば幸いです。

京都府立医科大学泌尿器科学

浮村 理・堀内 大介